

きれいな空とやわらかな水辺、 人にやさしく美しいまちなみを めざして

～ 空港のまち、千歳における都市景観形成の取組み～



千歳市企画部まちづくり
推進課都市計画係 主任

品田 雅俊

1. はじめに

千歳市は、国立公園支笏湖や鮭の遡上で知られる清流千歳川に代表される豊かな自然環境に恵まれる一方で、新千歳空港や北海道縦貫・横断自動車道など優れた都市機能を有しており、空・陸交通の要衝地として国内外から多くの人々が訪れる北の交流都市として発展を続けています。平成14年度には人口が9万人に達し、市立千歳市民病院の開院や循環型コミュニティバス「ピーバス」の運行開始など総合的な都市づくりが進められるとともに、市街地整備では、平成11年3月に策定した「千歳市都市計画マスタープラン」に基づく計画的な都市基盤整備が進められ、市民の暮らしもより豊かなものとなってきました。

一方、近年では、人々のまちづくりに対する意識が、量的な社会資本整備の時代から都市の潤いや安らぎなどといった心の豊かさを求める質の高い都市づくりへと大きく変化しており、環境への配慮やバリアフリーなどの視点に加え、美しい都市景観の形成がまちづくりにおける重要なキーワードとなっています。

こうした中で、千歳市においては、北海道観光のイメージづくりとして空港周辺における北海道らしい沿道景観の形成が求められているほか、これから進められるJR千歳駅周辺の開発や電線類の地中化など、都市景観の視点から検討が必要とされる課題が数多く上げられているところであり、千歳らしく魅力あふれる都市景観の形成が今後のまちづくりにおける重要な課題となっています。

ここでは、千歳市がこれまでに進めてきた都市景

観形成の各種取組みと、昨年8月に策定を終えた「千歳市都市景観形成基本計画」の概要についてご紹介します。



JR千歳駅周辺を走るピーバス

2. 屋外広告問題から来道者に配慮した沿道景観づくりへ

千歳市における先導的な都市景観形成の取組みとして、新千歳空港アクセス沿道地区景観形成ガイドラインがあげられます。この地区は、昭和50年



是正前の屋外広告物の状況

代後半に、新千歳空港から道央自動車道千歳インターチェンジを結ぶ幹線道路の沿道に大型屋外広告塔が乱立し、日照や眺望の阻害、過剰なネオンによる住環境の悪化等大きな環境問題となっていました。

その後、周辺住民の要望等を受け、平成元年に北海道屋外広告物条例の改正が行われ、企業や屋外広告業主の理解のもと、数多くの大型広告塔が撤去されました。

平成9年3月には、この地区が、北海道観光の

視点から非常に重要な路線であるとの判断から、来道者に北海道らしい沿道景観を提供するため、北海道の呼びかけのもと北海道開発局や千歳市などの参加により「新千歳空港アクセス沿道景観形成ガイドライン」が策定されました。策定後は、このガイドラインに基づき、各道路管理者により沿道の周辺緑化など景観整備が実施される一方、新規屋外広告物の抑制や沿道事業者への協力、情報提供など各種取組みを推進しているところであり、現在も良好な沿道景観の形成に努めているところです。



新千歳空港アクセス沿道景観形成ガイドライン

3. 街づくり千歳デザイン会議の取り組み

次に、千歳市民によって取組まれた事例として、平成4年に発足した「街づくり千歳デザイン会議（以下デザイン会議）」があります。デザイン会議は、市民により組織された自主的なまちづくり組織で、平成4年から平成8年の間に数多くのまちづくり活動を実施しています。具体的な活動内容としては、支笏湖畔に架かる道内最古の鋼橋である山線鉄橋の保存に関する検討や公共案内サインのデザイン検討の他、まちづくりセミナーの開催、景観タウンウォッチングなどがあり、こうした活動を行うなか平成6年7月には、市民の立場から千歳のまちづくりに対する提言をまとめた「提言書～千歳らしさの創造～」を作成し、千歳市長へ報告されました。この提言書では、まちづくりに必要な仕組みづくりとして、都市景観形成の重要性が強く指摘されており、まちへの愛着を感じられるような都市環境の形成、そこに住むことに誇りを持てるような「ふるさと千歳」の景観をつくりあげていくことが豊かな市民意識を育むことにつながると提言して

います。具体的な都市景観形成のアプローチ手法としては、景観シンポジウムを始めとして、景観ガイドプランの策定や基金の創設、デザイン検討機関の設置、人材の育成などがあげられていました。

4. 千歳市都市景観形成基本計画の策定

こうした状況のなか、千歳市は、市の最上位計画である「千歳市新長期総合計画」において、都市づくりの目標に「魅力と活力あふれる都市づくり」を掲げ、これを実現するための主要事業として「千歳市都市景観形成基本計画」の策定を位置づけました。

これは、千歳市が市民や来訪者にとって魅力あふれる快適な都市環境であるために、総合的な都市景観形成の指針のもとに、市民とともに「千歳らしい」良好な都市景観の保全に努め、公共施設や街路、沿道空間、屋外広告物などのデザインにも配慮した街並み形成を進める必要があるとのことから位置付けたものです。

策定作業としては、平成8年度に「景観に関する市民アンケート調査」を実施、平成12年度から

本格的な策定作業に着手し、平成14年8月に計画の最終決定を行いました。また、策定にあたっては、計画に市民の意見を幅広く反映させたものとするために、デザイン会議の経験者を含む「ちとせ都市景観市民会議」を設け、この会議のなかで計画の素案づくりを実施しました。

市民会議には、計19名の千歳市民に参加をいただき、平成12年9月から平成14年3月の最終会議に至るまで、計12回にのぼる会議を実施しました。



市民会議によるワークショップ風景

5. ガイドプランとガイドライン

千歳市都市景観形成基本計画は、基本方針となる「ちとせ都市景観ガイドプラン（以下ガイドプラン）」と誘導指針となる「ちとせ都市景観ガイドライン（以下ガイドライン）」、重点地区ガイドラインから構成されており、重点地区としては、JR千歳駅周辺地区と新千歳空港アクセス沿道地区の2地区が位置付けられています。

この計画は、都市景観が道路や公園といった公共空間のほか、住宅、看板など目に見えるすべてのもので構成されていることから、市民・事業者・行政がそれぞれの役割をしっかりと理解し、パートナーシップのもとに景観形成を進めていこうとするものです。

ガイドプランでは、都市景観形成の基本理念、都市景観形成の課題と方向性、都市景観形成の目標、都市景観形成の基本方針、都市景観形成上重要な地点、都市景観形成のイメージを示しており、都市景観を構成している各要素を、「水とみどりの景観」「拠点の景観」「まちなみの景観」「みちの景観」の4つのグループに分類し、それぞれに景観形成の基本方針を定めています。このガイドプランの果たす役割としては、千歳市がめざす都市景観の未来像を市民・事業者・行政で共有すること、市民・事業者・行政の役割を明確にすること、都市景観形成に対する市民参加の意識高揚を促すこと、の3点となっています。

ガイドプランでは、都市景観形成の基本理念、都市景観形成の課題と方向性、都市景観形成の目標、都市景観形成の基本方針、都市景観形成上重要な地点、都市景観形成のイメージを示しており、都市景観を構成している各要素を、「水とみどりの景観」「拠点の景観」「まちなみの景観」「みちの景観」の4つのグループに分類し、それぞれに景観形成の基本方針を定めています。このガイドプランの果たす役割としては、千歳市がめざす都市景観の未来像を市民・事業者・行政で共有すること、市民・事業者・行政の役割を明確にすること、都市景観形成に対する市民参加の意識高揚を促すこと、の3点となっています。

都市景観形成の基本理念

- ・千歳市の持つ特性・魅力を生かし千歳らしさを創出する
- ・大地のもつ美しい自然・風土・歴史を活かす
- ・みんなで時間をかけて、まもり・育て・つくる

市民

事業者

行政

協働・共創のまちづくり（しくみづくり・意識づくり）

都市景観形成の目標

～きれいな空とやわらかな水辺、人にやさしく美しいまちなみをめざして～

次に、ガイドラインは、ガイドプランで掲げた都市景観形成の目標を達成するために都市景観上特に配慮すべき点を具体的手引書としてまとめたもので、建築や開発行為、また、地区計画やその他まちづくりルールの検討の際に参考としていただき、良好な都市景観形成に努めていこうとするものです。

このなかでは、千歳の景観特性や都市景観形成誘導指針、景観チェックシートなどが掲載されてお

り、写真やイラストなどを使い景観形成の手法をわかりやすく表現したものとなっています。また、花や緑づくりなど日常生活の中でも取り組める景観づくりや花いっぱい運動、イルミネーションコンクール、また、北海道美しい景観のくにづくり条例、北海道屋外広告物条例、地区計画など各種法制度についても紹介をしています。

このガイドラインについては、策定後、市内に全戸配付を行っているほか、千歳市の都市計画や建



ちとせ都市景観ガイドライン

築確認申請の各窓口で常備し、広く景観形成に対する啓蒙啓発に努めているところです。



水とみどりの景観の誘導指針イメージ

6. JR千歳駅周辺整備事業と今後の取組みについて

この計画の策定作業と平行して、平成14年度から実施しているJR千歳駅周辺整備事業では、市民参加により駅前景観の検討を行っています。市民ワークショップでは、駅前景観のあり方について様々な意見が出され、今後は、こうした取組みの一つひとつが、千歳らしい都市景観を形成していくための重要なポイントになると考えています。

なお、今後の取組みについてですが、この計画では、今後、景観形成を進めていくために必要な取組みとして、市民参加による景観づくりの推進 各種情報提供啓蒙啓発 連携体制の構築 地域と一体となった公共事業の推進の4点を示してい

ます。具体的手法としては、子どもからの教育、地域リーダーの育成、景観アドバイザーの活用や公共事業における市民参加の推進などがあげられ、今後は、こうした取組みを段階的に進めながら千歳らしい都市景観の保全と創出に努めていきたいと考えています。また、新千歳空港アクセス沿道地区のように広域的な観点からの景観形成についても、昨年制定された「北海道美しい景観のくづくり条例」との連携を図りながら積極的に進めていく必要があると考えています。最後になりますが、この計画の策定に際しご協力頂きました関係者の方々には、この場を借りてお礼申し上げますとともに、国や北海道、近隣市町村の皆さまには、今後のこの計画の推進に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



駅周辺整備に係るワークショップの状況